



## 1 区隊（特科）曾宮建夫

### ある宰相の思い出

これはある宰相への老生の片想いである。彼とは直接会話をしたわけではない。

自衛隊退職後、東京理科大に奉職していた 2005～2006 年頃、老生が 62 歳頃の出来事である。新職場の勤務時間が午後 3 時～から 9 時半までということで昼間は自由であった。天気の良い日には近くの代々木公園に行き運動に当てた。大体午前 10 時～11 時半の間、公園内の周囲を 2 周速足で歩いた。途中約 10 分の休憩時間を入れた。

休憩場所は暫くすると不思議なもので自分の好みの場所が自然と定まった。ただその場所にはいつも先客がいて同じ場所を占拠する人がいた。運動服装に運動靴を履きいつも帽子をかぶった人品卑しからず、控えめで当時 80 歳を超えたとされる老紳士でした。そのうちいつもお会いするので自然と軽い挨拶を交わすことになった。

会えば若輩の私が先に「おはようございます」とあいさつすると軽く無言、笑顔で会釈するようになった。無言で笑顔のままであったが温かみは伝わり、滲み出る風貌・態度から小生を憎からず思っていると感じた。暫くしてその方は元宰相の M 氏と確信したが、知らぬ顔をして挨拶だけ交わす日々が続いた。彼も飾らぬ態度で接してくれた。依然として無言も笑顔も変わらずであった。

私には米国で経験した小話したいと機会を伺ったが恐れ多く、とうとう話題は切り出せないまま過ぎそのうち M 氏は姿を見せなくなってしまった。

その小話をすると、私は 1979 年オクラホマ州にある米陸軍砲兵学校に派遣され約 3 ヶ月間かの地で過ごした。任務を終了して帰国するとき、世話役の中尉が帰路途中サンフランシスコ（桑港）に寄って行けと勧められ宿泊地を金門橋の南端にある PRESIDIO という巨大な米陸軍基地にあるゲストハウスに 2 泊した。この基地は 1951 年 9 月 8 日桑港講和会議で日米安全保障条約が締結された場所であつたと壁に飾った写真で知った。M 氏はこの桑港講和会議全権団で講和条約調印に陪席した池田勇人の懐刀として全権団の枢要な一員として参加していた。今にして思うと防大後輩の衆議院中谷君が M 氏の秘書を務めた事を知り、この小話を持ち出せばもしかしたら M 氏に話が聴けたかと思えたが残念であった。

更に時代はくだり私は 2013 年年末沖繩クルーズを 10 日間楽しんだ。狭い船上で毎日顔を合わせるうち懇意になった老夫妻がいて奄美大島を過ぎた付近から食堂で食事を共にするようになった。

名前は広瀬（成蹊大学出身）といい私より 10 歳先輩で、聞けば広瀬氏のご尊父広瀬与兵衛は貴族院議員で（後の参議院議員）桑港講和会議派遣団議員団のメンバーで M 氏とは懇意の仲であった。

広瀬氏とは暫く個人的なお付き合いをさせていただいたが 2017 年頃没した。彼のご令室様は成蹊大創始者の中村春二の孫で今も 90 歳を過ぎ健在である。ついでに話は飛躍するが、私の遠戚に当たる画家の曾宮一念が東京美術学校（現東京芸大）を卒業後成蹊大学に美術教師として奉職し、中村春二の薫陶を受けたとは全く 70 歳になるまで知らぬにいた。いくつもの偶然が重なり赤の他人であった人が見えない糸で結ばれていたのを知り人生の不思議を知った。M 氏が 2007 年没して 16 年が経つ。ご冥福を祈る。（合掌）

（\*冒頭の写真は昨 11 月鹿児島島の友人を訪ねたときの桜島）